

浄土九品の事

文永六年

四八歳

難行・易行。聖道・浄土。雜行・正行。諸行・念仏。
法然房の料簡は諸行と念仏と相對なり。

二義

一勝劣、一難易。

一に諸行を廢して念仏に帰せんが為に而も諸行を説くなり。

助正

二に念仏を助成せんが為に而も諸行を説くなり。

傍正

三に念仏・諸行の二門に約して各三品を立てんが為に而も諸行を説くなり。
若し善導に依らば初めを以て正と為すのみ。

至誠心・深心・廻向發願心なり

讀誦大乘
上品上生

三種の心を發して即便往生す
復三種の衆生有り 当に往生を得べし

一には慈心にして殺さず 諸の戒行を具す

二には大乘方等經典を讀誦す

法然房の料簡に云はく、華嚴經・方等經・
經・法華經・涅槃經・大日經・深密經・
經等の一切の大乘經は讀誦大乘の一句に
撰尽す。

三には六念を修行す — 六念

天施戒 僧法仏

上輩
大乘凡夫
値大善根

上品中生
解第一義

上品下生

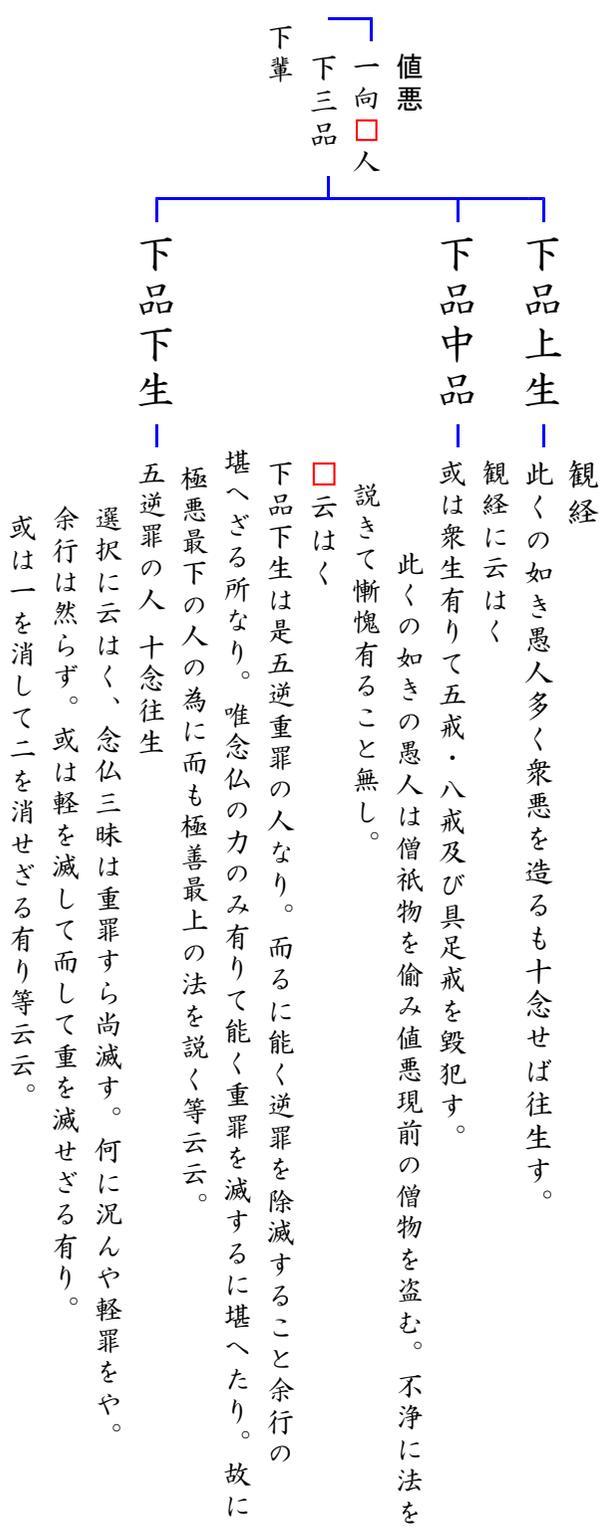
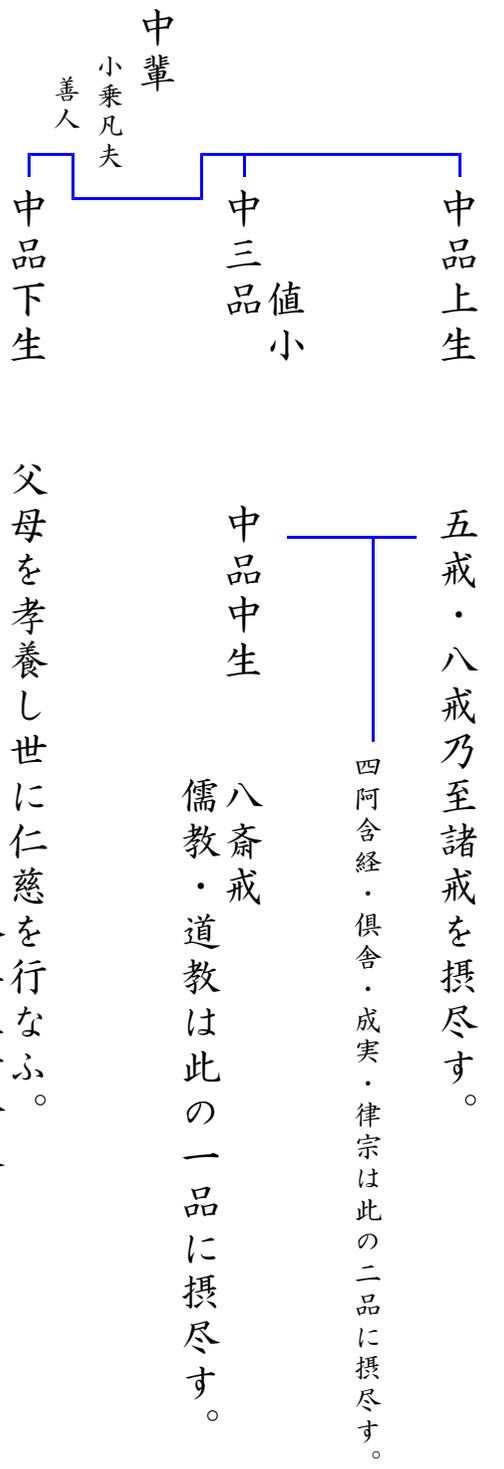
善く義趣を第一義に解す

法然の料簡に云はく、華嚴の唯心法界、法相の唯識、三論の八不、真言の五相成身、天台の一念三千は皆解第一義の一句に撰尽す。

法然の料簡。深信の因果に十界の因果を撰尽す。

般若
楞嚴

上三品



捨閉閣拋釈迦仏等の一切諸仏
法華經等の一切經
天台宗等の八宗九宗世天等

淨土三部經阿弥陀仏よりの外なり
安樂集に云はく
未だ一人も得る者有らず。

唯淨土の一門のみ有りて通入すべき路なり。

往生礼讚に云はく
千中無一
十即十生・百即百生

道観

一弟子

長樂寺

南無

隆寛

多念

故嵯峨法皇の御師

一弟子

小坂

善慧

故打宮入道

修観

極楽寺殿の御師

一弟子

筑紫
聖光

念阿弥陀仏

法蓮

源空
法然房

建仁年間
後鳥羽院の御宇

一条

諸行無常

覚明

道阿弥

嵯峨

聖心

成覚

一念

法本

顕真座主
八人の碩徳
破す、

頼顕僧正の御師

菌城寺の長吏

公胤大式僧上

浄土決疑集三巻を造りて法然房の選択集を

随機の諸行皆往生を為すべし等云云。

故宝地房法印証真の弟子

上野清井者

定真堅者

彈選択二巻を造る。随機諸行往生

証義者

宗源法印

証真の嫡弟

竹中法印

大和の庄

椀生

俊鏝

三塔の総学頭

三千人の大衆

聖覚

五人探題

貞雲

竜証

華嚴宗

トガノオノ

明慧房

摧邪輪三巻を造る

随機諸行往生

法相宗
三論宗
華嚴宗
真言宗
天台宗

深密經に依る

三時教をもて一代を撰尽し返りて深密經を以て法華經を下す。
般若經・妙智經等に依る

二藏三時をもて一代を撰尽し返りて妙智經を以て法華を下す。
華嚴經等に依る

五教をもて一代を撰尽し返りて華嚴經を以て法華を下す。
大日經・六波羅蜜經に依る

五藏をもて一代を撰尽し返りて大日經等を以て法華經を下す。
四教五時をもて一代を撰尽す。

県の額を州に打ち
牛跡に大海を
入る。

伝教大師此の義を許すや不や

「夫三時の教は勝義の領解にして一了の聞は義生の機宜なり、猶三了を闕く、何ぞ一代を撰せん」と。
華嚴云はく、三論云はく、真言等云云。